

## 第13回農作物病害虫防除フォーラム開催要領

### 1 開催趣旨

環境問題に対する国民の関心が高まる中で、農業生産活動に伴う環境への負荷を低減することが求められており、農業生産の安定性や効率性に配慮しながら環境負荷を低減する取組として、総合的病害虫・雑草管理（IPM）の普及が求められている。

このためには、「防除の要否及び実施基準の的確な判断」に基づいた防除を行い、病害虫・雑草の発生・まん延を防止する必要がある。

その判断に当たっては、発生予察情報の活用やほ場の観察が行われているが、より精度の高い発生予察情報の提供とともに、農業者自身で判断できる簡易な技術の開発や要防除水準の設定が求められる。

このため、今回のフォーラムでは、病害虫発生予察におけるシミュレーションモデルの活用や農業者自身で実施できる防除判断手法等について、生産現場で取り組まれている先進技術について講演を行うとともに、これらの技術の普及に向けた総合討論を行う。

### 2 開催日時

平成19年6月12日（火） 13:30～17:30

### 3 開催場所

農林水産省講堂（本館7階）

### 4 参集範囲

都道府県、地方農政局、独立行政法人、病害虫・雑草防除関係団体、農薬製造業者及び農業者団体

### 5 講演議題

#### (1) 病害虫発生予察シミュレーションモデルの活用と課題について

##### ① 山口県における水稻病害虫発生予察シミュレーションモデルの活用

山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室（病害虫防除所）  
専門研究員 発生予察グループ研究総括 野崎 匠 氏

##### ② より活用しやすい発生予察情報をめざす

～果樹・茶害虫の発生予察モデルの利用～

長崎県病害虫防除所発生予察班 主任技師 陣野 泰明 氏

#### (2) 農家自身で活用可能な要防除水準の設定及び地図カルテ手法

大阪府環境農林水産総合研究所食の安全研究部防除土壌グループ  
総括研究員 田中 寛 氏

#### (3) 果樹における農家自身で判断できる予察技術の開発と普及の重要性

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当 井手 洋一 氏

#### (4) 土着天敵を温存した園芸作物の減農薬害虫防除技術

埼玉県農林総合研究センター 副所長 根本 久 氏

#### (5) 総合討論

座長：植物防疫全国協議会会長